

First Hit

L16: Entry 8 of 15

File: JPAB

Mar 19, 1996

PUB-NO: JP408073369A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08073369 A
TITLE: TEA FOR HEALTH

PUBN-DATE: March 19, 1996

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

KUBO, MICHITOKU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

KK FUAIKUDO

APPL-NO: JP06208828

APPL-DATE: September 1, 1994

INT-CL (IPC): A61 K 35/78; A61 K 35/78; A61 K 35/78; A61 K 35/78; A61 K 35/78;
A61 K 35/78; A61 K 35/78; A61 K 35/78; A61 K 35/78; A61 K 35/78; A23 F 3/34;
A23 L 2/38; A61 K 35/80

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain a tea for health which is prepared by extracting a mixture of at least two kinds of crude drugs.

CONSTITUTION: This tea for health is obtained by extracting a mixture of two crude drugs selected from KOUZINN(rhizome of Panax ginseng), Acanthopanax senticosus, KEIHI (bark of Cinnamomum cassia), adlay, ganoderma A(red ganoderma), Houttuynia cordata, Citrus unshiu marc, ganoderma B(black ganoderma), Eucommia ulmoides Oliver, leaf of Lycium chinense Mill., Cassia obtusifolia L., TERATUBAKI (dried unripe fruit of Ligustrum lucidum), Humulus lupulus L., Cassia occidentalis, Polygonum multifolium THUNB., Crataegus cuneata Sieb. et Zucc., dried bud of Rosa rugosa Thunb. var. plena Regel, Gymnema sylvestre R. Br., KANNZOU(root of Glycyrrhiza glabra), curcuma, ginger, dried fruit of Citrus trifoliata Rafin., Chaenomeles sinensis Koehne, Matricaria chamomilla L., Fortunella japonica Swing, KANNKYOU(rhizome of Zingiber officinale), leaf of guava, UBAI(dried fumigated unripe fruit of Prunus mume Sieb. et Zucc.), dried flower of Chrysanthemum molifolium Ramat., Glycine max Merrill., flower of Pueraria lobata(WILLD.) OHWI and KIGUSI (fruit of Hovenia dulcis THUNB).

COPYRIGHT: (C)1996, JPO

First Hit**End of Result Set**

L19: Entry 2 of 2

File: DWPI

Mar 19, 1996

DERWENT-ACC-NO: 1996-205454

DERWENT-WEEK: 199621

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Health tea - consists of at least two extracts of e.g. Panax ginseng, Citrus unshiu, Prunus mume etc.

PATENT-ASSIGNEE: FAIRUDO KK (FAIRN)

PRIORITY-DATA: 1994JP-0208828 (September 1, 1994)

Search Selected

Search ALL

Clear

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
<input type="checkbox"/> JP 08073369 A	March 19, 1996		007	A61K035/78

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DATE	APPL-NO	DESCRIPTOR
JP 08073369A	September 1, 1994	1994JP-0208828	

INT-CL (IPC): A23 F 3/34; A23 L 2/38; A61 K 35/78; A61 K 35/80

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 08073369A

BASIC-ABSTRACT:

Health tea is composed of extracts of at least 2 or more Panax ginseng, Acanthopanax senticosus, Cinnamomum cassia, Coix lacryma-jobi, Ganoderma lucidum, Houttuynia cordata, Citrus unshiu, Eucommia ulmoides, Lycium chinense, Cassia obtusifolia, Ligustrum lucidum, Humulus lupulus, Cassia torosa, Polygonum multiflorum, Crataegus cuneata, Rosa rugosa, Gymnema sylvestre, Glycyrrhiza glabra, Curcuma longa, Zingiber officinale, Citrus trifoliata, Chaenomeles sinensis, Matricaria chamomilla, Fortunella japonicae, Zingiber officinale, Psidium guajava, Prunus mume, Chrysanthemum molifolium, Glycine max, Pueraria lobata, and Hovenia dulcis. Also claimed are 13 particular compsns. (e.g. 1.5-12 pts. each of Panax ginseng, Acanthopanax senticosus and Cinnamomum cassia, and 3.5-28 pts. of Coix lzcryma-jobi). Claimed components are suitably selected, mixed and extracted to give the healthy tea.

In an example, a mixt. of 1.3g each of Panax ginseng, Acanthopanax senticosus and Cinnamomum cassia, and 3.0 g of Coix lzcrymajobi was cut to pieces of about 2 cubic mm and extracted with about 300 ml of hot water at 85-100 deg.C for 1 hr. and filtered to give healthy drink.

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 08073369A

EQUIVALENT-ABSTRACTS:

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

DERWENT-CLASS: B04 D13

CPI-CODES: B04-A10; B14-E11; D03-D03;

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-73369

(43) 公開日 平成8年(1996)3月19日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 35/78	ADD W	8217-4C		
	AAE			
	AAT			
	ABF			
	ABU			

審査請求 未請求 請求項の数14 O L (全 7 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平6-208828

(22) 出願日 平成6年(1994)9月1日

(71) 出願人 391007264

株式会社ファイルド

大阪府大阪市城東区新喜多東1-9-2

(72) 発明者 久保 道徳

大阪府堺市晴美台2-21-8

(74) 代理人 弁理士 青山 葆 (外2名)

(54) 【発明の名称】 健康茶

(57) 【要約】

【目的】 本発明は少なくとも2種以上の生薬の配合された処方から抽出される健康茶を提供するものである。

【構成】 紅参、エゾウコギ、桂皮、ハトムギ、霊芝B (赤芝)、ドクダミ、久丸、霊芝A (黒芝)、杜仲茶、クコ葉、エビスグサ、テラツバキ、ホップ、ハブソウ、ツルドクダミ茶、サンザシ、マイカイカ、ギムネマ、カンゾウ、ウコン、生姜、カラタチ、カリン、カミツレ、キンカン、カンキョウ、グアバ実、グアバ葉、烏梅、菊花、ダイズ、葛花、キグシから選ばれる少なくとも2種以上の生薬の配合された処方から抽出される健康茶。

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 紅参、エゾウコギ、桂皮、ハトムギ、靈芝B（赤芝）、ドクダミ、久丸、靈芝A（黒芝）、杜仲茶、クコ葉、エビスグサ、テラツバキ、ホップ、ハブソウ、ツルドクダミ茶（全草）、サンザシ、マイカイカ、ギムネマ、カンゾウ、ウコン、生姜、カラタチ、カリン、カミツレ、キンカン、カンキョウ、グアバ実、グアバ葉、烏梅、菊花、ダイズ、葛花、キグシから選ばれる少なくとも2種以上の生薬の配合された処方から抽出される健康茶。

【請求項2】 紅参1.5～12、エゾウコギ1.5～12、桂皮1.5～12およびハトムギ3.5～28の割合で配合された処方から抽出され、ケイヒアルデヒド約22 $\mu\text{g}/\text{ml}$ を含む強壮用オタネニンジン茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項3】 靈芝B 1～8、ドクダミ1.5～12、久丸2～16およびハトムギ3.5～28の割合で配合された処方から抽出される、美肌およびアレルギー用靈芝茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項4】 靈芝A 1～8、杜仲茶1.5～12、クコ葉1～8、ドクダミ0.5～4およびエビスグサ3～24の割合で配合された処方から抽出される、高血圧用杜仲茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項5】 テラツバキ1.5～12、ホップ0.05～0.4およびエビスグサ2～12の割合で配合された処方から抽出される、鎮静用サターギ茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項6】 ハブソウ1～8、エビスグサ2～16の割合で配合された処方から抽出される、便秘用エビス茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項7】 ツルドクダミ全草1～8、サンザシ0.5～4、マイカイカ0.5～4およびギムネマ0.5～4の割合で配合された処方から抽出される、減肥用ツルドクダミ茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項8】 ハトムギ2～16およびドクダミ1.5～12の割合で配合された処方から抽出される、美容および美肌用ハトムギ茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項9】 カンゾウ0.5～4、ウコン1～8、生姜0.5～4、カラタチ2～16およびエビスグサ2～16の割合で配合された処方から抽出され、グリチルリチン約12 $\mu\text{g}/\text{ml}$ を含む胃薬用ウコン茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項10】 カミツレ1～8、甘草0.5～4、キンカン1～8、カリン2～16およびハトムギ1～8の割合で配合された処方から抽出され、グリチルリチン約18 $\mu\text{g}/\text{ml}$ を含むのどおよび美声用カリン茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項11】 カンゾウ0.5～4、カンキョウ1～8、桂皮1～8、紅参2～16およびハトムギ0.5～4の割合で配合された処方から抽出され、グリチルリチ

2

ン約29 $\mu\text{g}/\text{ml}$ およびケイヒアルデヒド約7 $\mu\text{g}/\text{ml}$ を含む温めおよび冷房病用カンキョウ茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項12】 グアバ実1～8、グアバ葉1～8、烏梅0.5～4およびエビスグサ0.5～4の割合で配合された処方から抽出される、糖尿用グアバ茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項13】 菊花2～16、ダイズ0.5～4およびエビスグサ3.5～28の割合で配合された処方から抽出される、肩こり用菊花茶である、請求項1記載の健康茶。

【請求項14】 葛花0.5～4、キグシ1～8およびエビスグサ2～16の割合で配合された処方から抽出される、二日酔い防止用葛花茶である、請求項1記載の健康茶。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は少なくとも2種以上の生薬の配合された処方から抽出される健康茶に関する。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】生薬は天然物そのもので、何千年という永い経験と伝承により、薬物として認識利用されてきたものであつて、薬理試験の結果、薬効を明らかにして医薬品として用いられたものではない。生薬をそのまま単味で、数種の生薬を配合したり、また家庭薬に配合するなどの使用は極めて多い。このように生薬をそのまま利用するものにあっては単にその生薬の有効成分による薬効のみを期待するものではなく、生薬に含まれる微量な成分を含め、多くの複合含有成分、さらにこれが数種の生薬によって多数組み合わせさせたものの薬効を期待して使用されるもので、そこには幾つかの成分の相乗、相加作用、ときには相減、相殺作用も推定される。現在有効成分の明らかなものといえども、微量成分を含め全複合成分の明らかなっているものは少ない。特に日本、広くは東洋において最も多種類にわたって使用されている漢方製剤に利用する漢薬類については、有効成分はおろか、成分の明らかなものもあり、薬理学的に解明されているものはなはだ少ない。従つて、数種の生薬を配合処方した薬効は、長年の生薬に関する知識と経験とさらに実際に服用することによって確認され得るものである。

【0003】お茶は、古来、飲料としてだけではなく、薬用として服用される習慣がある。すなわち、お茶代わりに生薬を処方した薬用茶を長期にわたって服用し、緩やかな薬効を期待するものである。本発明は現在日本で使用されている300種あまりの生薬から、永年にわたって生薬を取り扱ってきた経験と知識により、数種の生薬を選択し所定の薬効を期待し得る処方を完成し、健康茶として提供するものである。

【0004】生薬とは、医薬用またはその原料として天

然から得られる素材を簡単に加工、調製して得たものをいう。本発明で使用される生薬は以下の植物性生薬である。

【0005】紅参(コウジン)：日本(長野、島根および福島)、韓国および北朝鮮で産出されるオタネニンジン(ウコギ科)(*Panax ginseng* C.A.Meyer)(高麗人参)およびその他の近縁植物の根を蒸乾させたものであり、成分はサポニン：ジンセノサイド類が報告されている。効能は、強壮および疲労回復である。

【0006】エゾウコギ(*Acanthopanax senticosus* Ham.)：用いられるのはウコギ科のエゾウコギの根皮で、強壮、鎮静、食欲増進に用いられる。エゾウコギの根はトナカイが厳しい冬を越えるための食物としていた植物である。

【0007】桂皮：クスノキ科の植物のケイ(*Cinnamomum cassia* Blume)またはその他同属植物(クスノキ科)の樹皮で、中国(広東、広西など)、ベトナム、ラオス、タイおよびスリランカで産出される。樹皮を乾燥したものであり、成分は、精油1~3%、精油中ケイアルデヒド(cinnamic aldehyde)80~90%であり、芳香性健胃薬、発汗、解熱、鎮痛および興奮薬である。一般にシナモンとして知られる古代エジプト以来の香辛料であり、さわやかな芳香と甘味が特徴である。

【0008】ハトムギ(*Coix lacryma-jobi* L. var. *maruyuen* Stapf.)：イネ科の植物で、利用部位は果実で、消炎、利尿、健胃、排膿に用いる。成分はコイクセノリド(coixenolide)およびデンプンである。香ばしい香りでハトムギ茶として知られている。

【0009】霊芝B(赤芝)および霊芝A(黒芝)、霊芝(ganoderma)：サルノコシカケ科のキノコであるマンネンタケ(*Ganoderma lucidum* (Leyss. ex. Fr.))、またはその近縁種の子実体を乾燥したものである。芝草ともいわれ、その色によって赤芝、黒芝の他に、紫芝、白芝などがある。蛋白質を含む多糖類、エルゴステロール、ガノデリック酸などを含有する。霊芝Bはアレルギー性疾患に、霊芝Aは血圧降下薬として用いられる。

【0010】ドクダミ(十薬)：ハンゲショウ科の植物でドクダミ(*Houttuynia cordata* Thunberg)の花期の地上部をいい、日本各地で産出される。成分は、クエルチトリン(quercitrin)、イソクエルチトリン(isoquercitrin)などのフラバノールで、利尿および緩下薬として用いられる。

【0011】久丸：ミカン科の植物ウンシュウミカン(*Citrus unshiu* marc.)、その他の近縁植物の未熟果実である。産地は日本(愛媛、和歌山、広島)、中国(四川、江西)、韓国などである。市場では形状により、久丸、小割、青切、赤切などと称される。芳香性健胃薬、止瀉、去痰、排膿、アレルギー疾患治療に用いられる。成分はヘスペリジン、ノビレチン等のフラボノイドである。

【0012】杜仲茶：トチュウ科(*Eucommiaceae*)のトチュウ(*Eucommia ulmoides* Oliv.)の葉を乾燥したもので、中国(四川および貴州省)が産量最大で品質も良く、強壮、強精および血圧降下薬として利用されている。葉を引きさくと、細い白い糸を引く特徴があり、その成分はグッタベルカである。

【0013】クコ葉：ナス科の植物(*Lycium chinense* Mill.)の葉を摘み取り乾燥したものであり、成分はベタイン(betaine)である。強壮薬として用いられる。

【0014】エビスグサ(*Cassia obtusifolia* L.)：マメ科の植物であり、日本(長野、埼玉、香川、奈良および鳥取)および中国(台湾)で産出される。エビスグサは種子を乾燥したものであり、成分は、アントラキノン誘導体(emodin, obtusifolin, obtusin)などを含み、緩下、利尿、強壮に用いられる。コーヒーのような風味がする。

【0015】テラツバキ：モクセイ科(*Oleaceae*)のトウネズミモチ(*Ligustrum lucidum* Aiton)の未熟果実を乾燥したもので、中国で大量に生産され、その他韓国および日本でも産出される。成熟したものは女貞子といわれ、滋養強壮薬として用いられる。未熟なものは沖縄でサターギと呼び、炮ったものは気分がよくなるお茶として飲用されている。

【0016】ホップ(*Humulus lupulus* L.)：クワ科の植物で、ヨーロッパ原産であり、西ドイツ、アメリカなどで、また北海道、岩手、長野県などでも栽培される。利用部位は球果であり、ビールの苦味、芳香料として用いられる。成分は、フムロン、ルブロンなどの苦味質、および精油成分である。ヨーロッパではとくに鎮静薬として用いられる。

【0017】ハブソウ(*Cassia torosa* Cav.)：マメ科の植物で、熱帯アメリカ原産である。エビスグサと同属の植物であり、利用部位は同じく種子である。健胃、緩下、消炎の目的で用いられる。

【0018】ツルドクダミ(*Polygonum multifolium* THUNB.)：タデ科の中国原産の植物の全草を乾燥したものを、緩下、強壮薬として用いる。成分はヒドロキシアントラキノン類や、スチルベン誘導体を含む。葉の形状がドクダミの葉に似ているところからこのように称されている。最近では高脂血症の改善、肥満体の痩身に用いられている。

【0019】サンザシ(*Crataegus cuneata* Sieb. et Zucc.)：中国原産のバラ科の植物の果実を乾燥したものであり、成分は、アミグダリン、クエルセチンおよびクロロゲン酸である。健胃、整腸、抗菌、血管拡張、高脂血症改善作用がある。

【0020】マイカイカ：バラ科(*Rosaceae*)の野生のバラであるマイカイ(*Rosa rugosa* Thunb. var. *plena* Regel)の花蕾を乾燥したもので、中国(浙江省呉興産)のものが品質最良とされている。さわやかな酸味がす

5

る。成分は1-シトロネロール、ネロール、ゲラニオール、オイゲノールなどの精油成分およびビタミンCが豊富に含まれる。止瀉、止血、生理不順および抗炎症薬として応用されている。

【0021】ギムネマ (*Gymnema sylvestre* R. Br.) : インドから中国および熱帯、亜熱帯に分布するガガイモ科のツル性植物である。インドでは約2000年前から、葉を糖尿病治療薬として使用している。糖の体内吸収を阻害する作用が知られている。

【0022】カンゾウ (甘草) (*Glycyrrhiza Radix*) : マメ科の*Glycyrrhiza glabra* L. var. *glandulifera* Regel et Herder, *Glycyrrhiza uralensis* Fisherまたはその他同属植物である。モンゴル、中国、シベリア南部、西アジア、イラン、イラク、アフガニスタンおよび南ヨーロッパで産出され、利用部位は、根および走茎である。成分は、甘味サポニン：グリチルリチン (*glycyrrhizin*) であり、独特の強い甘さがある。アマクサ、アマキとも称される。効能は、鎮咳、去痰、解毒、緩和、鎮痛、鎮痙および矯味薬である。

【0023】ウコン (*Curcuma longa* L.) : 熱帯アジア原産のショウガ科の植物で、利用部位は根茎で、成分は、タルメロン、ジンギベレンおよびオイクミンである。カレー粉の黄色はウコンによるものである。健胃、強肝、利胆薬として用いる。

【0024】生姜：ショウガ科のショウガ (*Zingiber officinale* Roscoe) であり、日本 (静岡、神奈川および岡山など)、中国、台湾およびベトナムで産出される。利用部位は根茎で、薬味として香りと辛味の両方が利用される。成分は、精油0.25~3% : ジンギベロール (*zingiberol*)、セスキテルペンで、辛味成分はジンゲロール (*gingerol*) である。利胆、健胃、利尿、止血、通経薬として用いられる。

【0025】カラタチ：ミカン科 (*Rutaceae*) のカラタチ (*Citrus trifoliata* Rafin.) の成熟果実を乾燥したもので、健胃、駆風、抗アレルギー作用がある。

【0026】カリン (*Chaenomeles sinensis* Koehne) : リンゴやナシと同じバラ科の植物であるカリン樹の果実である。輪切りにして乾燥したものは木瓜と呼び、咳止め、のどの痛み止めに用いる。成分は、サポニンおよびタンニンである。

【0027】カミツレ (*Matricaria chamomilla* L.) : キク科の植物で、頭状花を乾燥して発汗、駆風、消炎として用いる。またのどの薬としてヨーロッパではハーブティーとして利用されている。成分は、カマズレンおよびヘルニアリンである。

【0028】キンカン：ミカン科キンカン (*Fortunella japonica* Swing=*Citrus japonica* Thunb.) の果実であり、香りがよい。成分は、ガラクタン、ペントサンおよびフラボノイドで、乾燥したものを咳止め、のどの薬として用いている。

6

【0029】カンキョウ：ショウガの根茎で一度蒸すか、湯通ししてから乾燥したものをカンキョウ (乾姜) といっている。生姜に含まれる揮発しやすい精油がとり除かれ、辛味成分だけになっている。薬効は本来の生姜とは異なり、身体を温める作用がある。

【0030】グァバ (*guava*) 実およびグァバ葉：フトモモ科の和名バンジロウ (*Psidium guajava* L.) の未熟果実および葉を乾燥したもので、ともに糖尿病に用いられる。果実、葉の成分は多量のタンニン、ビタミンA、C、クエルセチン、などを含む。台湾、沖縄では健康茶として糖尿病の他に肝臓病、リウマチ、腎炎などにも応用されている。

【0031】烏梅：バラ科 (*Rosaceae*) のウメ (*Prunum mume* Sieb. et Zucc.) の未熟果実を蒸蒸して乾燥させたもので、中国浙江省合溪に主産し、成分は、果実にはコハク酸、クエン酸、リンゴ酸および酒石酸などの有機酸を含有し、その他シトステロールにオレアノール酸、セリルアルコールなどが報告されている。用途は、止瀉、解熱、鎮咳、去痰および鎮吐作用があり、酸味が強いことから、糖尿病の口の乾きを止める作用のあることも知られている。色が黒いためこの名がある。

【0032】菊花：キク科のキク (*Chrysanthemum moliifolium* Ramat.) などの頭状花 (花弁) を乾燥したものの。甘菊花ともいわれ、下熱、解毒、消炎、鎮痛作用があるといわれ、とくに血液循環がよくなるので肩こりにも応用されている。

【0033】ダイズ：マメ科のダイズ (*Glycine max* Merrill.) で、中国、アメリカおよびカナダで産出される。ダイズには、肩こりの治療薬で有名な葛根と同じ成分 (ダイゼイン) を含み、他にもダイズサポニンを多量に含有し、肩こりによいといわれている。

【0034】葛花：マメ科のツル性植物クズ (*Pueraria lobata* (Willd.) Ohwi) の夏に咲く赤紫色の花を中国では葛花といい、酒毒を解し、二日酔い防止に効果がある。イソフラボン成分を含む。

【0035】キグシ：日本、中国に野生するクロウメモドキ科のケンボナシ (*Hovenia dulcis* Thunb.) の果柄を含む果実部をキグシと称し、酒酔、口渴、嘔吐の薬とする。成分はトリテルペノイドのホベニン酸、各種糖類である。

【0036】生薬は全形生薬のまま使用することは不便であり、通常、配合前にそれぞれの生薬をまたは配合後に切断または粉末化して、切断生薬または粉末生薬として抽出する。本発明では上記の34種の生薬から少なくとも2種の生薬を選択し配合処方してこれを抽出し、健康茶とするものである。配合処方された13種の健康茶は好ましくは下記の配合割合で処方され、下記の処方から抽出によって健康茶300ml (約1杯分) を調製する。

50 【0037】(1)オタネニンジン茶

7

紅参1.5~12、エソウコギ1.5~12、桂皮1.5~12およびハトムギ3.5~28の割合で配合された処方から抽出され、ケイヒアルデヒド約22 μ g/mlを含む強壮用健康茶であり、より好ましい配合割合は、紅参1.5~6、エソウコギ1.5~6、桂皮1.5~6およびハトムギ3.5~14であり、さらに好ましくは、紅参3、エソウコギ3、桂皮3およびハトムギ7の割合で含まれる。例えば、オタネニンジン茶300mlの抽出には、紅参1.3g、エソウコギ1.3g、桂皮1.3gおよびハトムギ3.0gが用いられ、ケイヒアルデヒド約6.5mgが含まれる。

【0038】(2) 霊芝茶

霊芝B 1~8、ドクダミ1.5~12、久丸2~16およびハトムギ3.5~28の割合で配合された処方から抽出され、美肌およびアレルギー用霊芝茶である。より好ましい配合割合は、霊芝B 1~4、ドクダミ1.5~6、久丸2~8およびハトムギ3.5~14であり、さらに好ましくは、霊芝B 2、ドクダミ3、久丸4およびハトムギ7である。例えば、霊芝茶300mlの抽出には霊芝B 0.7g、ドクダミ1.0g、久丸1.3gおよびハトムギ3.0gが用いられる。

【0039】(3) 杜仲茶

霊芝A 1~8、杜仲茶1.5~12、クコ葉1~8、ドクダミ0.5~4およびエビスグサ3~24の割合で配合された処方から抽出される、高血圧用杜仲茶である。より好ましい配合割合は、霊芝A 1~4、杜仲茶1.5~6、クコ葉1~4、ドクダミ0.5~2およびエビスグサ3~12であり、さらに好ましくは、霊芝A 2、杜仲茶3、クコ葉2、ドクダミ1およびエビスグサ6である。例えば、杜仲茶300mlの抽出には、霊芝A 1.0g、杜仲茶1.5g、クコ葉1.0g、十葉0.5gおよびエビスグサ3.0gが用いられる。

【0040】(4) サーターギ茶

テラツバキ1.5~12、ホップ0.05~0.4およびエビスグサ2~16の割合で配合された処方から抽出される、鎮静用サーターギ茶である。より好ましい配合割合は、テラツバキ1.5~6、ホップ0.05~0.2およびエビスグサ2~8であり、さらに好ましくは、テラツバキ3、ホップ0.1およびエビスグサ4である。例えば、サーターギ茶300mlの抽出には、テラツバキ2.9g、ホップ0.1gおよびエビスグサ4.0gが用いられる。

【0041】(5) エビス茶

ハブソウ1~8、エビスグサ2~16の割合で配合された処方から抽出される、便秘用エビス茶である。より好ましい配合割合は、ハブソウ1~4、エビスグサ2~8であり、さらに好ましくは、ハブソウ2、エビスグサ4である。例えば、エビス茶300mlの抽出には、ハブソウ2.0g、エビスグサ4.0gが用いられる。

【0042】(6) ツルドクダミ茶

8

ツルドクダミ全草1~8、サンザシ0.5~4、マイカイカ0.5~4およびギムネマ0.5~4の割合で配合された処方から抽出される、減肥用ツルドクダミ茶である。より好ましい配合割合は、ツルドクダミ全草1~4、サンザシ0.5~2、マイカイカ0.5~2およびギムネマ0.5~2であり、さらに好ましくは、ツルドクダミ全草2、サンザシ1、マイカイカ1およびギムネマ1である。例えば、ツルドクダミ茶300mlの抽出には、ツルドクダミ2.0g、サンザシ1.0g、マイカイカ1.0gおよびギムネマ1.0gが用いられる。

【0043】(7) ハトムギ茶

ハトムギ2~16およびドクダミ1.5~12の割合で配合された処方から抽出される、美容および美肌用ハトムギ茶である。より好ましい配合割合は、ハトムギ2~8およびドクダミ1.5~6であり、さらに好ましくは、ハトムギ4およびドクダミ3である。例えば、ハトムギ茶300mlの抽出には、ハトムギ4.0gおよびドクダミ3.0gが用いられる。

【0044】(8) ウコン茶

カンゾウ0.5~4、ウコン1~8、生姜0.5~4、カラタチ2~16およびエビスグサ2~16の割合で配合された処方から抽出され、グリチルリチン約12 μ g/mlを含む胃薬用ウコン茶である。より好ましい配合割合は、カンゾウ0.5~2、ウコン1~4、生姜0.5~2、カラタチ2~8およびエビスグサ2~8であり、さらに好ましくは、カンゾウ1、ウコン2、生姜1、カラタチ4およびエビスグサ4である。例えばウコン茶300mlの抽出には、カンゾウ0.5g、ウコン1.0g、生姜0.5g、カラタチ2.0gおよびエビスグサ2.0gが用いられ、グリチルリチン約3.5mgが含まれる。

【0045】(9) カリン茶

カミツレ1~8、甘草0.5~4、キンカン1~8、カリン2~16およびハトムギ1~8の割合で配合された処方から抽出され、グリチルリチン約18 μ g/mlを含むのどおよび美声用カリン茶である。より好ましい配合割合は、カミツレ1~4、甘草0.5~2、キンカン1~4、カリン2~8およびハトムギ1~4であり、さらに好ましくは、カミツレ2、甘草1、キンカン2、カリン4およびハトムギ2である。例えば、カリン茶300mlの抽出には、カミツレ1.0g、甘草0.5g、キンカン1.0g、カリン2.0gおよびハトムギ1.0gが用いられ、グリチルリチン約5.3mgが含まれる。

【0046】(10) カンキョウ茶

カンゾウ0.5~4、カンキョウ1~8、桂皮1~8、紅参2~16およびハトムギ2.5~20の割合で配合された処方から抽出され、グリチルリチン約29 μ g/mlおよびケイヒアルデヒド約7 μ g/mlを含む温めおよび冷房病用カンキョウ茶である。より好ましい配合割合は、カンゾウ0.5~2、カンキョウ1~4、桂皮

1~4、紅参2~8およびハトムギ2.5~10であり、さらに好ましくは、カンゾウ1、カンキョウ2、桂皮2、紅参4およびハトムギ5である。例えば、カンキョウ茶300mlの抽出には、カンゾウ0.5g、カンキョウ1.0g、桂皮1.0g、紅参2.0gおよびハトムギ2.5gが用いられ、グリチルリチン約8.6mgおよびケイヒアルデヒド約2.1mgが含まれる。

【0047】(11)グアバ茶

グアバ実1~8、グアバ葉1~8、烏梅0.5~4およびエビスグサ0.5~4の割合で配合された処方から抽出される、糖尿用グアバ茶である。より好ましい配合割合は、グアバ実1~4、グアバ葉1~4、烏梅0.5~2およびエビスグサ0.5~2であり、さらに好ましくは、グアバ実2、グアバ葉2、烏梅1およびエビスグサ1である。例えば、グアバ茶300mlの抽出には、グアバ実2.0g、グアバ葉2.0g、烏梅1.0gおよびエビスグサ1.0gが用いられる。

【0048】(12)菊花茶

菊花2~16、ダイズ0.5~4およびエビスグサ3.5~28の割合で配合された処方から抽出される、肩こり用菊花茶である。より好ましい配合割合は、菊花2~8、ダイズ0.5~2およびエビスグサ3.5~14であり、さらに好ましくは、菊花4、ダイズ1およびエビスグサ7である。例えば、菊花茶300mlの抽出には、菊花2.0g、ダイズ0.5gおよびエビスグサ3.5gが用いられる。

【0049】(13)葛花茶

葛花0.5~4、キグシ1~8およびエビスグサ2~16の割合で配合された処方から抽出される、二日酔い防止用葛花茶である。より好ましい配合割合は、葛花0.5~2、キグシ1~4およびエビスグサ2~8であり、さらに好ましくは、葛花1、キグシ2およびエビスグサ4である。例えば、葛花茶300mlの抽出には、葛花1.0g、キグシ2.0gおよびエビスグサ4.0gが用いられる。

【0050】飲用試験

上記(1)~(13)の健康茶を煎じ、実際に飲用した結果、飲用時の生薬特有の匂いまたは味に問題があるとの意見があったもののおおむね、ややまたは明らかな効果が認められるとの試験結果であった。特に(1)強壯用オタネニンジン茶：夏バテ、血圧安定などに効果があり、熟睡できるようになった；(2)美肌およびアレルギー用霊芝茶：便通がよくなり、肌あれがなくなり、またアレルギー一症状も緩解した；(3)高血圧用杜仲茶：血圧低下および血圧安定に効果があった；(4)鎮静用サターギ茶：イライラしなくなった；(5)便秘用エビス茶：便通がよくなった；(6)減肥用ツルドクダミ茶：便通がよくなった、または体重が減少した；(8)胃薬用ウコン茶：食欲が増進した；(9)のどおよび美声用カリン茶：はちみつを入れて飲むと喘息によい；(11)糖尿用グアバ茶：便通

がよくなった、または血糖値が低下した；(12)肩こり用菊花茶：からだがボカボカする；(13)二日酔い用葛花茶：二日に効果があった；との報告があった。

【0051】実施例1

飲用時調製(1)オタネニンジン茶

市販の生薬である紅参1.3g、エソウコギ1.3g、桂皮1.3gおよびハトムギ3.0gを秤量し、これを配合前にそれぞれまたは配合後に切断機を用いて平均2mm角程度に切断または粗砕・中砕機を用いて粉末化する。これに水約300mlを添加し、一度沸騰させた後約1時間約95℃~約100℃の温度に保ちながら煎じる。ついで、固形物を濾過する。切断生薬を用いた場合は、茶漉しで、粉末生薬を用いた場合はネルまたは濾紙で濾過して、ゆのみに濾液を溜める。そのまま、または冷やして1回分として飲用する。

【0052】実施例2

上記の(2)~(13)の健康茶300mlのためのの処方を用いて、実施例1と同様にして抽出し、1回分の健康茶を飲用時に調製する。

【0053】実施例3

ティーバッグ用(1)オタネニンジン茶

市販の生薬である紅参130g、エソウコギ130g、桂皮130gおよびハトムギ300gを秤量し、これを配合前にそれぞれまたは配合後に切断機を用いて平均2mm角程度に切断または粗砕・中砕機を用いて粉末化する。これを100包に分割し、通常の方法によりティーバッグとして調製する。飲用時にはこのティーバック1個を、水約300ml中に投入し、約1時間約95~100℃に保ちながら煎じた後、ティーバックを取り除く。

【0054】実施例4

上記の(2)~(13)に健康茶300mlのための配合割合により、実施例3と同様にしてそれぞれのティーバッグを製造し、飲用時に健康茶を調製する。

【0055】実施例5

缶入り(1)オタネニンジン茶

市販の生薬である紅参130g、エソウコギ130g、桂皮130gおよびハトムギ300gを秤量し、これを配合前それぞれまたは配合後に切断機を用いて平均2mm角程度に切断または粗砕・中砕機を用いて粉末化する。これを攪拌装置を備えた容器に移し、沸騰水約20lを注ぎ、攪拌しつつ約30分間抽出する。ついで、固形物を精密濾過器を用いて濾過し、濾液を121℃、15秒間にて滅菌、冷後缶詰し、約100個の容量約300mlの缶入りオタネニンジン茶を調製する。

【0056】実施例6

上記の(2)~(13)の健康茶300mlのための配合割合により、実施例5と同様にしてそれぞれの缶入り健康茶を調製する。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 35/78	ACJ			
	ACN			
	ACQ			
	ADA			
	ADP			
A 2 3 F 3/34				
A 2 3 L 2/38		C		
		H		
A 6 1 K 35/80	ADQ	Z 8217-4C		